

県研究主題

家族の一員として生活をよりよくしようと主体的に工夫する能力や実践的な態度を育てる学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 広瀬 美波（相模原地区）

<研究主題>

基礎基本の定着と評価を意識した授業づくり

— 自ら思考し、実践しようとする子どもたちのすがた —

1 提案内容

家庭科の学習内容は、児童の実生活に深く関わっている。小学校2年間の指導は、中学校3年間につながるものとして、5年間を見通して捉えなければならないと感じている。題材「わくわくミシン」において、児童が楽しみながら主体的に取り組む授業展開を工夫し、小学校で学ぶべき基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指した。

(1) 基礎基本の定着を図るための手立て

- ① エプロンの製作では、「三つ折りにする→待ち針でとめる→しつけ縫いをする→ミシン縫いをする」という手順をはじめにおさえ、その手順の定着のために、胸の部分、両脇、裾と意図的に4回繰り返し実施した。
- ② 毎時間、ミシンの各部の名称を言いながら、一人でミシンの準備を行うようにした。また、糸かけにかかる時間を計り、友達と楽しく競いながら技能の向上を目指した。
- ③ 10月にエプロンを製作し、2月に弁当包みを製作した。6年生ではトートバックを製作する予定である。そのため、5年生のうちにミシンを正しく操作できる姿を目指した。

(2) 子どもが自ら考え、主体的に製作に取り組むための手立て

- ① 上糸のかけ方、下糸の出し方、ボビンの巻き方などの手順を示したカードやエプロン作りのポイントを示したカードならびにミシン操作方法の動画と、3種類の教材を作成し、児童が作業途中に困った時、参考となるようにした。
- ② ペア学習やグループ学習など、学習形態を工夫した。友達と確認し合ったり、アドバイスをし合ったりして、課題を解決できるようにした。

(3) 思考力を育むための手立て

- ① 弁当包み作りでは、はじめに児童が実物を手にすることによって、折り返しの幅や2枚重ねの工夫等に気付けるようにした。また、不織布を用いて、試し製作も行った。ひもの通し方など、児童が試行錯誤しながら考える場面を意図的にもったことがよかった。

2 協議内容

- ・ 児童の実態から付きたい力を明確にし、年間指導計画を見直すと共に、学習全体の流れを考察しているところがよい。
- ・ ミシンを準備する順番を示したカード、エプロン作りのポイントを示したカード、ミシン操作方法の動画など、教材の準備を丁寧に行っている。児童が困ったときに教員を呼ぶのではなく、自分で解決しようとする意欲を支えている。

- ・ 2年間かけて、平面作品（エプロン）→半立体作品（弁当包み）→立体作品（トートバック）と、段階的に技能を高めている。児童にとって分かりやすい。
- ・ エプロン作りでは教員が必要な知識を教え、弁当包み作りでは児童が試行錯誤しながら製作計画を立てている。
- ・ 実物を手に取り、容量を広げたり丈夫に縫ったりするための工夫を考えている。「身近なものは、自分で考えて製作することができる」という充実感や達成感を味わう姿につながる。

提案2

提案者 仲子 真由美（県央地区）

<研究主題>

日常生活で活用する能力を育むための、「身近な消費生活」の学び

— 視点をもたせた、実践的・体験的な活動と問題解決的な学習を通して —

1 提案内容

小学校第5学年の家庭科「身近な消費生活」において、視点をもたせた、実践的・体験的な活動と問題解決的な学習を行うことによって、日常生活で活用する能力を育むことができるのではないかという仮説のもと、次の三つの手立ての授業提案が行われた。

(1) 手立て

① 買い物をするときの視点をもつ

どんなことが情報として挙げられるのか（値段・数量・新鮮さなど）について、視点をもつ。

② 実践的・体験的な活動

「①実物のノートを見ての情報比較」「②模擬買い物体験」「③買い物実習」の三つの実践的・体験的な活動を行う。

③ 問題解決的な学習

実践的・体験的な学習を通して、「買い物名人」とは何かについて考えるとともに、個人で「買い物記録カード」に記録していくことで、自分の買い物傾向を捉えさせる。

(2) 成果と課題

① 買い物をするとき視点をもたせることは、目的に応じて買い物をする判断基準として有効だった。

② 問題解決をしながら実践的・体験的活動を行うことにより、自分で考えた視点の有効性が明確になるとともに、新たな視点の発見に有効であった。

③ 本研究では、「めざそう買い物名人」と「食べて元気！ご飯とみそ汁」の二つの題材を関連させて行ったが、評価の面では複雑になる可能性がある。何をねらって授業をおこなっているのかをより意識して取り組む必要がある。

④ 今回はまとめ方（買い物名人3ヶ条）を教員が設定したが、児童に考えさせていく方法もあったかと思う。

⑤ 学んだことのまとめ方をどのような形にしようかと、題材のゴールを考えながら、主体的に取り組ませることも大事であると感じた。

2 協議内容

(1) 良かった点

- ① 商品を実際に比較するということはとても大切で、買い物実践をしたことはとてもよかった。
- ② 調理実習と合わせて買い物実践を行うことで、必然性が生まれ、それが児童の意欲につながっていた。
- ③ 教えること、考えさせること、実践させることなど、視点を明確に取り組みさせていたので、児童にとってとても分かりやすい授業になっていた。

(2) 質疑応答

- ① 「実生活に生かす」とあるが、どこまで生かしているのか。
 - ・ 1月にも買い物記録カードをつけさせたが、児童は自分が買い物をするときに気をつけなければいけないことを意識して買い物をしていたようだった。
- ② 問題解決学習で、自ら設定した問題とは何か。
 - ・ 今の自分の生活の中で、消費行動における問題
- ③ 児童の消費生活の中で、一番の視点は何か。
 - ・ 買い物の傾向を調べたときに、それぞれが設定した課題によって違ってくる。(買い物名人3ヶ条)
- ④ 年間計画を立てる際、「めざそう！買い物名人」の時数はどのくらいか。また、かなり時間がかかったと思われるが、題材によって軽重をつけた部分はあるか。
 - ・ 「めざそう！買い物名人」は、7時間だが、買い物実習があったので、2時間プラスした。「食べて元気！ご飯とみそ汁」の最後に「みそ料理のまとめ」(3時間)があったので、それは1時間扱いで行った。
- ⑤ 成果として「新たな視点の発見ができた」とあるが、どんなことか。
 - ・ 買い物場面によって、それぞれ視点が違ってくる。児童は場面によってどんなことに気を付けて買ったらいいのか、どんどん新しい視点を発見していった。

3 グループ協議

テーマ「日常生活で活用する能力をはぐくむための指導の工夫」についてグループごとに話し合い、発表し合った。

(1) 家庭との連携

- ① 家庭を巻き込んで授業を組み立てる。家族へのインタビューなど家庭ウォッチングや声かけ、ワークシートの工夫などを取り入れる。
- ② 家庭だよりや懇談会で、学習内容を家庭に発信していく。

(2) 目的意識・相手意識をもたせる

- ① 生活に密着した身近な教材や教具に目を向けさせる。
- ② 家族の一員として、自分は何ができるのかを考え直す機会を与える。

(3) 自立した生活につながるための力を育てる、教科ならではの役割を確認。

(4) 題材を配置する際、習得した力を繰り返し活用できる場面を、意図的に仕掛ける。

4 まとめ

(1) 提案の素晴らしかったこと

- ① 提案1・2ともに、児童の主体的な学びを仕掛ける教員の教材教具の工夫が大変良い。
- ② 資料として、テーマ設定の理由や検証方法、手立てなど提案の完成度が高かった。
- ③ 児童の実態を把握しながら、実践的・体験的な学習を工夫して取り入れた内容が良い。
- ④ 視点のもたせ方を工夫し、児童自身が今までの生活を振り返り、視点を広げることができたのが良かった。

(2) 新学習指導要領の視点からみた今回の提案について

- ① 提案1・2ともに、家庭の機能を理解する学びを土台にしながら、それぞれの内容に応じた見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫する力の育成を目指す提案だった。
- ② 新学習指導要領における個に応じた指導の視点も盛り込まれていて良かった。
- ③ 校区のスーパーに協力してもらうなど、地域の方との協働により児童を育てるという社会に開かれた教育課程を具現化した姿が見られた。
- ④ 地域の児童の実情をふまえて、カリキュラムが組まれていた。(カリキュラム・マネジメント)
- ⑤ 児童のアンケートから、買い物についての学びが深まったという実感をもてたことがよい。(主体的・対話的で深い学び)